

平成 27 年 11 月 20 日

調査レポート

実践女子大学 人間社会学部  
実践「ペルソナ」研究会

実践『ペルソナ』通信 (No.12)  
「実践女子大生における本学図書館利用」に関する調査結果  
～図書館ではパソコンを利用する人が半数～

実践女子大学人間社会学部・実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「本学図書館利用の実態」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は 62 サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当:竹内光悦）」、「経営学（担当:篠崎香織）」、「マーケティング（担当:斎藤明）」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、自分たちの消費活動、ライフスタイルをはじめ「実践女子大生が自分たち自身」を科学する研究会です。

総括

渋谷キャンパスに通う実践女子大学の学生は図書館をどのように利用しているのかを調査し、62サンプルからの回答を得た。

図書館の利用率については、90%以上が最低1回は利用しており、テスト期間前や期間中は利用頻度が高いことが分かった。また、図書館を利用する時間帯は空き時間を有効に活用している人が多く、全体の約80%の人が1冊以上は図書館で本を借りたと答えたが、図書館の利用目的の半数が「レポート作成」であることが分かった。

学校と家でのパソコンにおける作業効率は「学校」と回答した人は43%で多いように思えたが、「変わらない」という回答が31%となったため、「学校での作業効率が良い」という割合はそれほど高いとは言えず、特に意識していないことが伺える。

パソコンの所有に関しては、「自分用がある」と答えた人が約60%、「家族の兼用がある」と答えた人が約40%で、「所有していない」と答えた人はいなかった。図書館の利用目的の50%が「レポートの作成」であることから考えると、本学のパソコンを使用する頻度は、パソコンを所有する有無に関わらないということが言える。

調査結果のポイント

(1) 平成27年度の前期における図書館の利用率は約9割

平成 27 年度の前期に本学の図書館を利用したかの質問について、「はい」と回答した人は 97%、「いいえ」と回答した人は 3%となった。その結果、今回の回答者の図書館の利用率は高いと言える。

(2) 図書館の利用目的は「レポートの作成のため」が 50%

図書館の利用目的について尋ねたところ、「レポートの作成」と回答した人が全体の 50%であった。また、図書館を利用する時間帯について尋ねたところ「空き時間」に利用すると回答した人が全体の 70%であったことから空き時間を有効に活用しているということがわかった。

(3) 「6～9 冊本を借りる人」、「3～5 冊本を借りる人」の図書館利用目的は 6 割がレポート作成

本を借りる冊数別に図書館の利用目的を比較したところ、「10 冊以上本を借りている人」は本を読むという回答と文献を探すという回答が同率で 40%であった。「6～9 冊本を借りている人」はレポート作成という回答が 67%、「3～5 冊本を借りている人」はレポート作成という回答が 64%であった。

(4) 学校と家でのパソコンの作業効率について学校の方が良いという人が 4 割

学校と家とではどちらの方がパソコンを使用した作業効率が良いか尋ねたところ、「学校」と回答した人は 43%、次いで「家」と回答した人は 26%であった。また、「変わらない」という回答が 31%となった。その結果、今回の回答者の「学校での作業効率が良い」という割合はそれほど高いとは言えない。

(5) パソコンの所有について「自分用がある」という人が 6 割

パソコンの所有について尋ねたところ、「自分用がある」と回答した人は 64%、「家族と兼用のパソコンがある」と回答した人は 36%であった。また、本学のパソコンの利用頻度について、自分用のパソコンを所有する人で「10 回以上」と回答した人は 42%、家族と兼用のパソコンを所有する人で「10 回以上」と回答した人は 40%であった。その結果、本学のパソコンを使用する頻度は、パソコンを所有する有無に関わらないということがわかった。

#### 調査結果について

##### <調査概要>

1. 調査対象： 実践女子大学渋谷キャンパス在学生
2. 調査方法： 質問紙によるアンケート
3. 調査期間： 平成 27 年度 7 月 15 日（水）～ 平成 27 年度 8 月 10 日（月）
4. 有効回答者数： 62 名
5. 回答者の属性：【実践女子大学生：学年】 3 年： 100%

本調査担当チーム

実践「ペルソナ」研究会

3年 小柳萌子

3年 小林美羽

3年 佐保田未羽

3年 矢古宇真那

調査結果データ

(1) 平成27年度の前期に本学図書館利用の有無を尋ねたところ、97%の人が「利用した」と答えた。また、1か月ごとの利用回数を比べると、4月は「1週間に4回～6回利用した」と答えた人が3%であるのに対して、7月になると13%に増えており、全体的に見てもテスト期間が近づくにつれて利用率が高くなっていることが伺える(図1,2)。

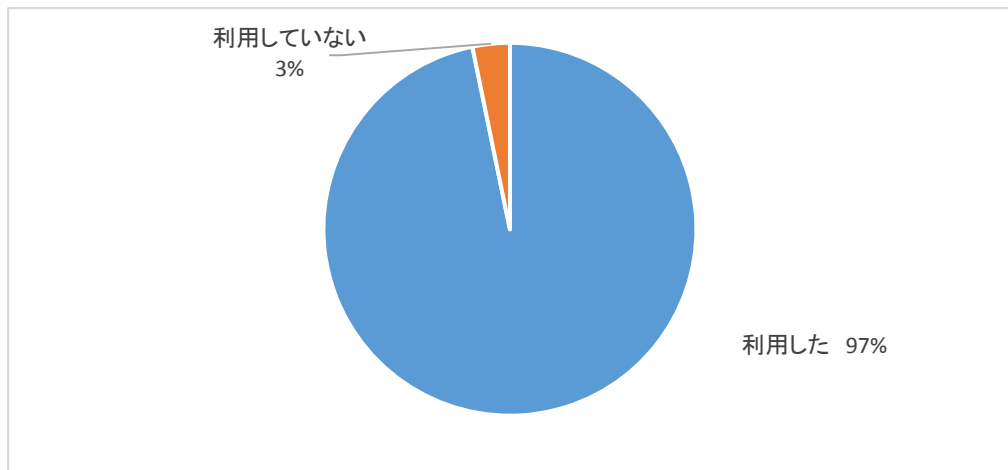
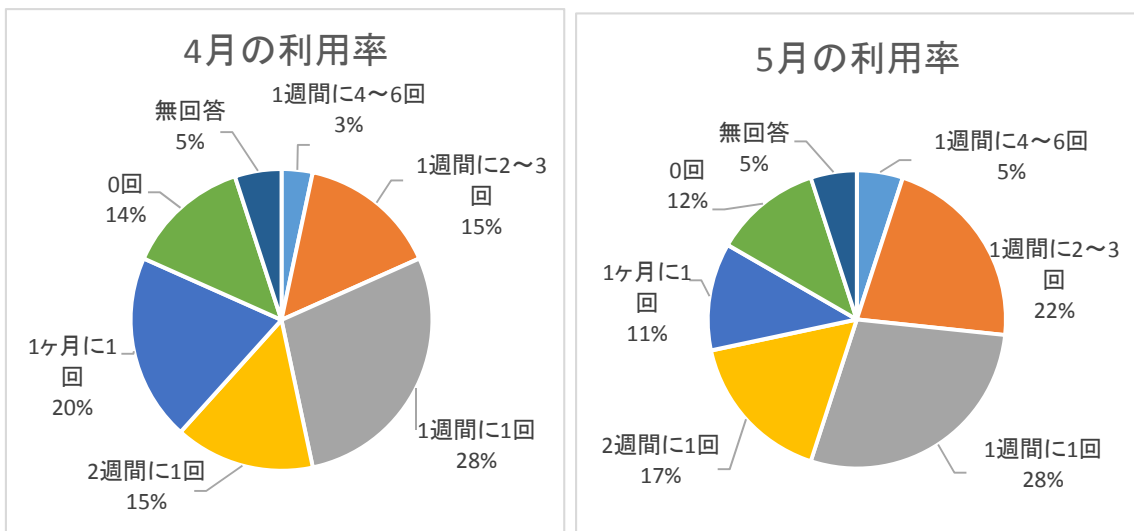


図1. 平成27年度の前期に本学図書館を利用したか (N=62)



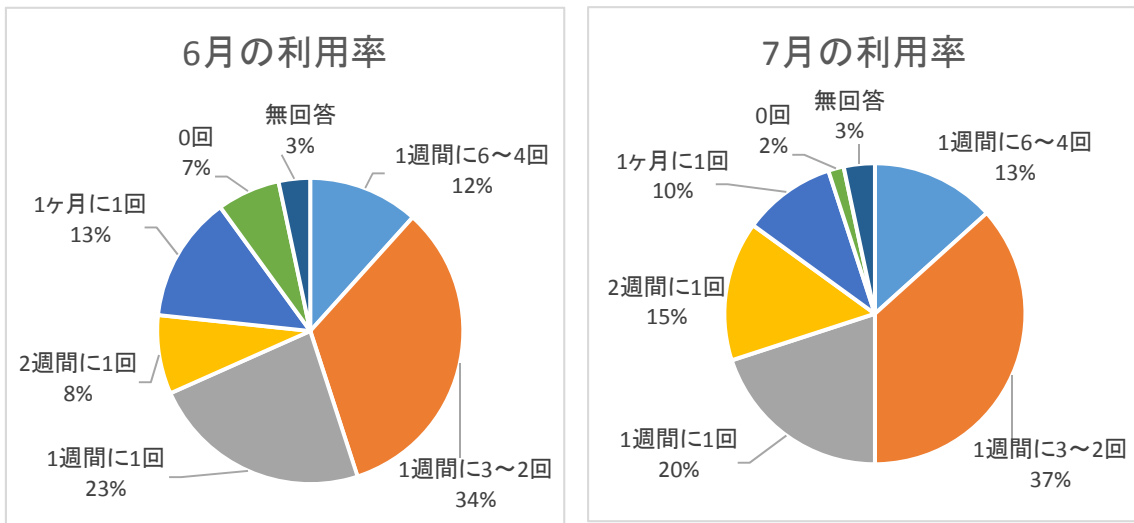


図2. 本学図書館の月ごとの利用回数 (N=62)

(2) 利用目的を尋ねたところ、最も高い割合を示したのは、「レポート作成のため」の50%であった。次いで、「パソコンを借りるため」が20%と2番目に割合が高かった。また、「雑誌を読む」、「談笑」を利用目的として答えた人はほとんどおらず、図書館はパソコンを使うために利用している人が多いことが伺える。その他に、「本を読む」10%、「文献を探す」、「仮眠」が8%、「テスト勉強」が2%という結果になった(図3)。

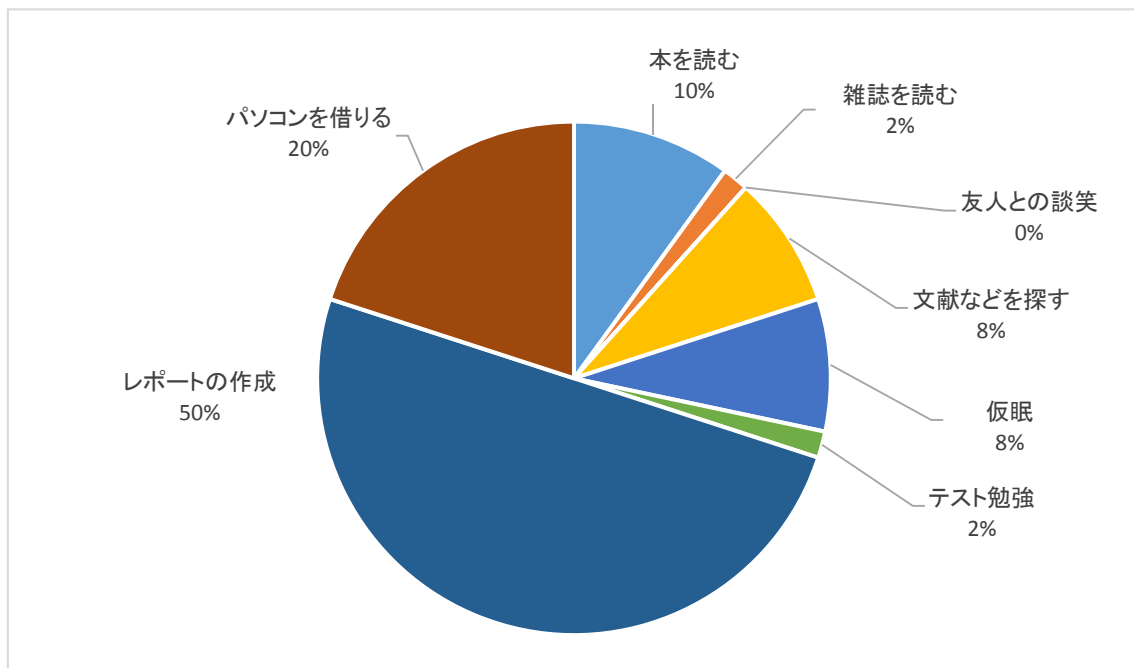


図3. 図書館の利用目的 (N=62)

(3) 本学の図書館を利用する時間を尋ねたところ、7割にあたる42人が空き時間に利用することが分かった。「授業前に利用する」と答えた人が12%である。「授業後に利用する」と答えた人は18%である。授業前よりも授業後の利用者の方が6%多いことが分かった(図4)。

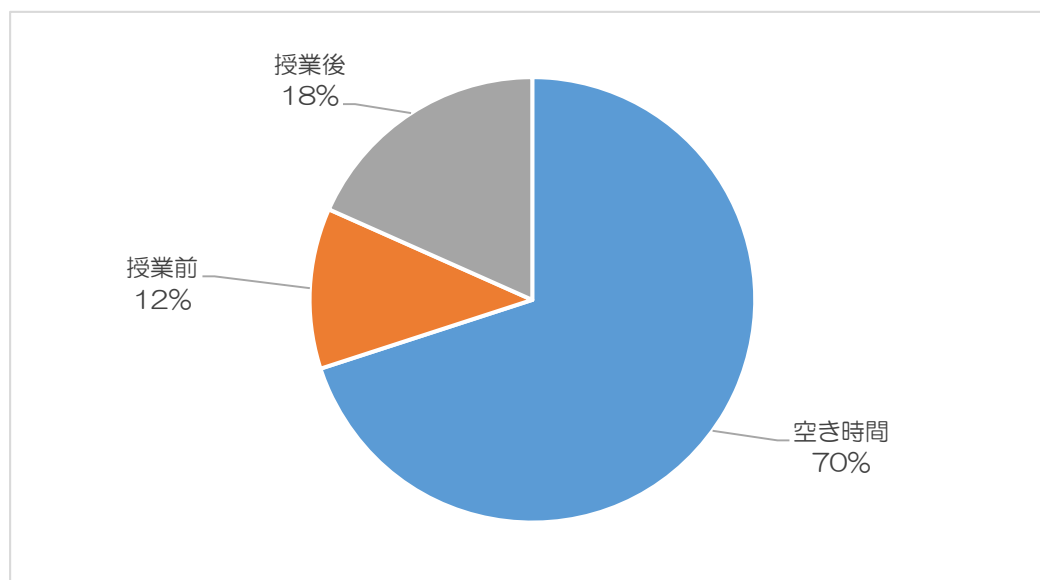


図4. 図書館の利用時間 (N=62)

(4) 平成27年度の前期に本学の図書館で借りた本の数を尋ねたところ、最も多い回答が、「1~2冊借りた」と答えた人で、33%だった。次いで「3~5冊」の32%である。「10冊以上借りた」と答えた人は8%で、1冊も借りていない人は17%いた。8割以上の人が、前期中に1冊以上は本を借りているということが分かった(図5)。

また、図5で「10冊以上借りている」と答えた人の、図3における利用目的は、「本を読む」と答えた人が40%、「文献を探す」と答えた人が40%、「レポートを作成する」人20%であった。「雑誌を読む」、「友達との談笑」、「テスト勉強」、「仮眠」、「パソコンを借りる」と答えた人はいなかった。また、「本を読む」と答えた人の割合は、「10冊以上読む」と答えた人が一番多い結果であった(図6)。「6~9冊借りている」と答えた人は、67%の人が「レポート作成のため」利用していることが分かった。「テスト勉強」と、「仮眠」がほぼ同数であった(図7)。次に「3~5冊借りている」と答えた人では、「本を読む」と答えた人は0%だった。64%の「レポート作成」が最も多い回答であった(図8)。

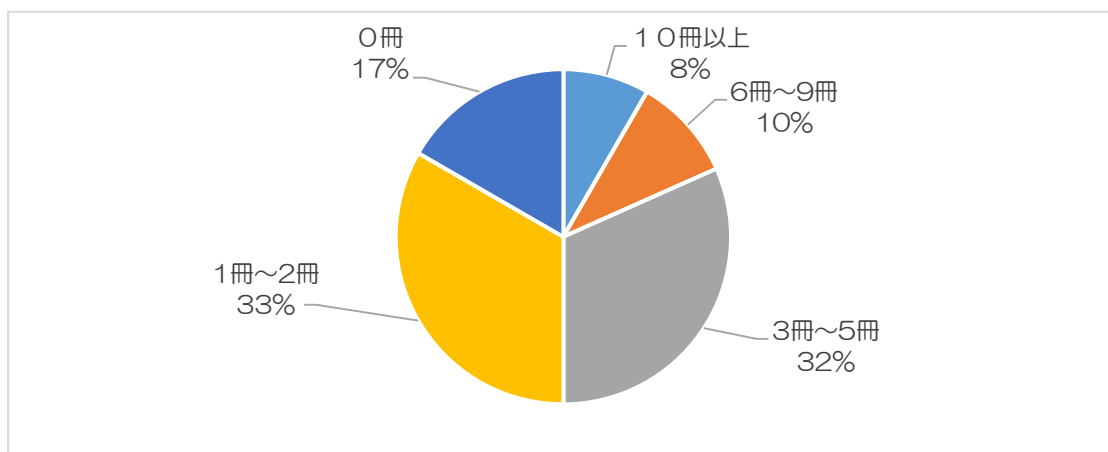


図 5. 図書館で借りた本の数 (N=62)

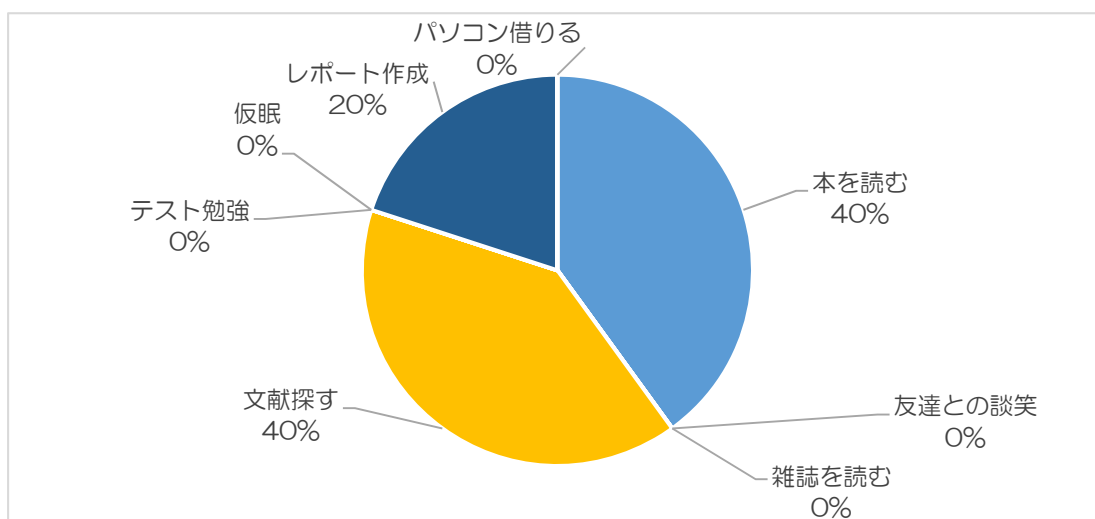


図 6. 「10冊以上借りている」と答えた人の、図3における利用目的 (N=5)

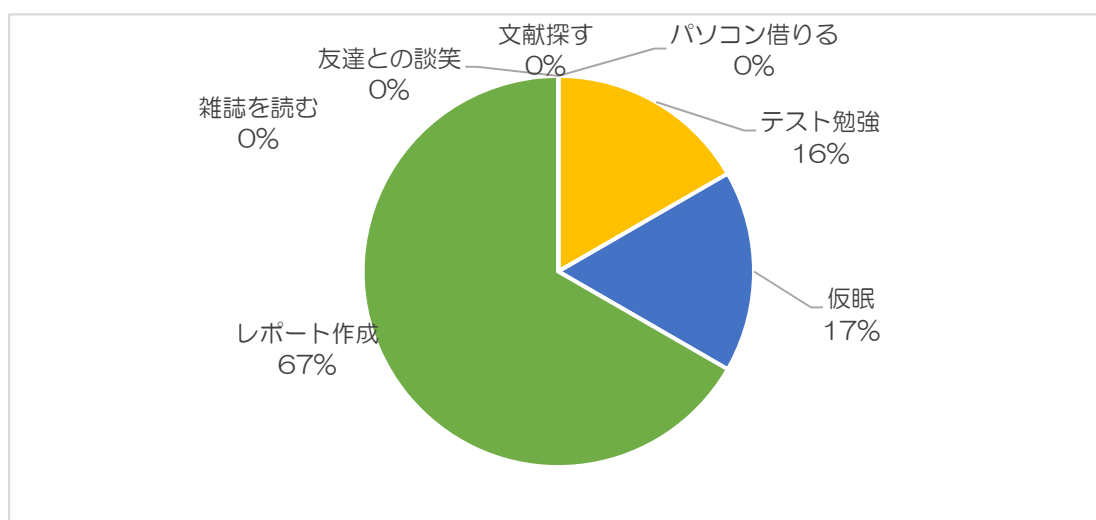


図 7. 「6~9冊借りている」と答えた人の、図3における利用目的 (N=6)

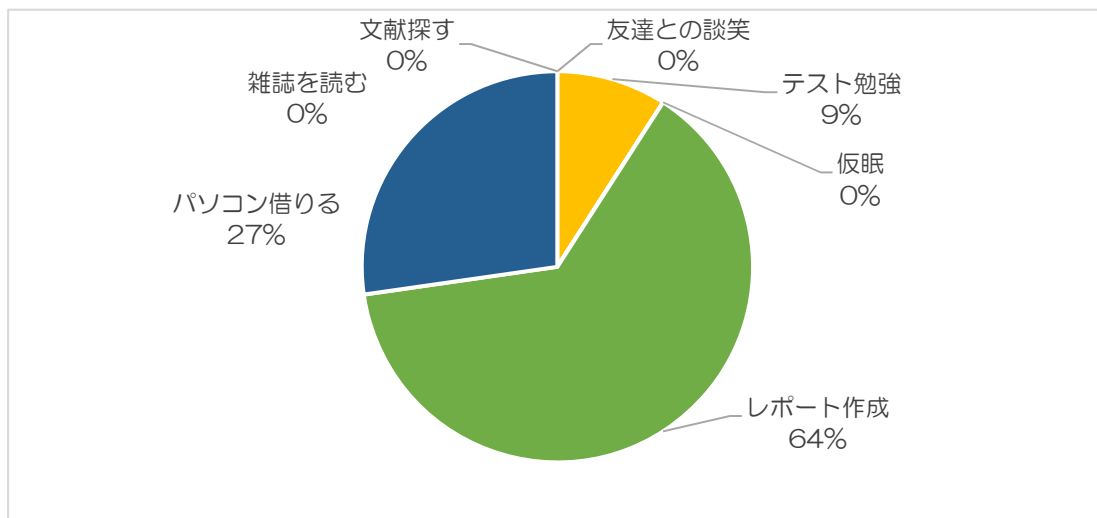


図 8. 「3～5冊借りている」と答えた人の、図3における利用目的 (N=19)

(5) 平成 27 年度の前期にパソコン（貸出を含む）をどのくらい使用したか尋ねたところ、1 番回答が多かったのは「10回以上」42%であった。次に多いのが「3回～5回」20%だった。「6回～9回」と回答したのは全体の 19%であり、回答者の半数以上が5回以上パソコンを使用したということがわかった（図 9）。

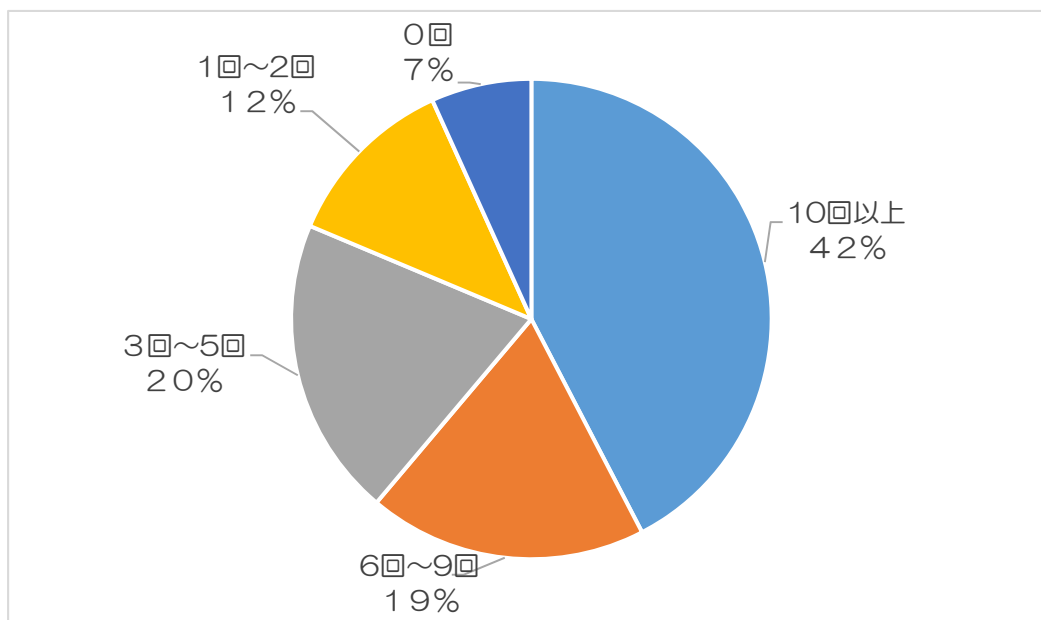


図 9. 前期にパソコン（貸出を含む）をどのくらい使用したか (N=59)

(6) パソコンの所有について尋ねたところ、「自分用がある」と回答した人は、全体の 64%であった。一方、「家族と兼用のパソコンがある」と回答した人は 36%であった。また、「パソコンを所有していない」と回答した人は 0%であった。自分用のパソコンを持

っているという人が回答者の半数を占めているということがわかった（図 10）。

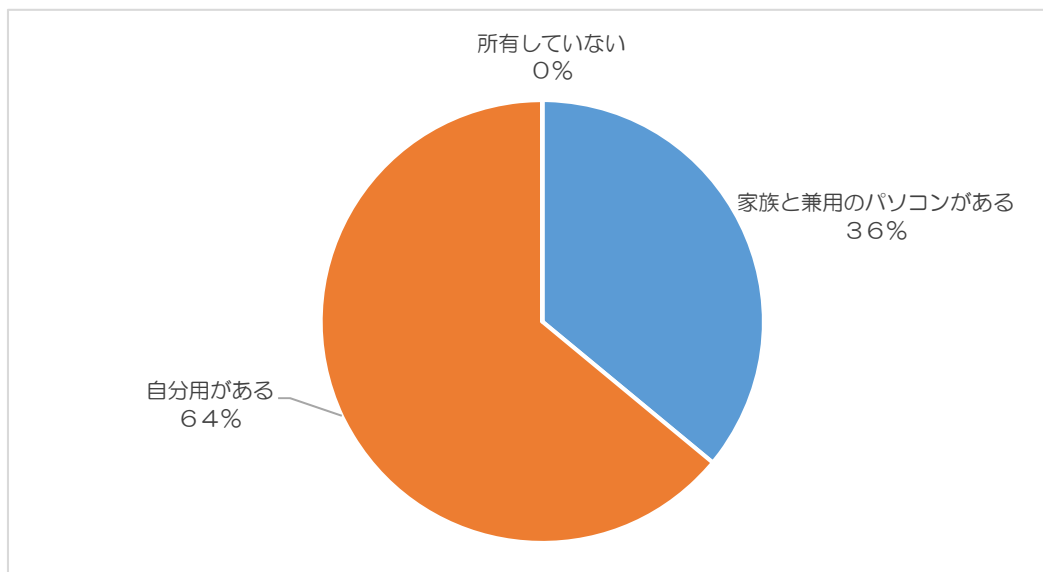


図 10. パソコンの所有率 (N=62)

(7) 家族と兼用のパソコンがある人と自分用がある人の平成27年度の前期にパソコン（貸出を含む）をどのくらい使用したかについて比較を行った。その結果、「10回以上」と回答した人が家族と兼用のパソコンがある人の中で約4割と最も高い割合で、次いで「6回～9回」と「3回～5回」と回答した人が同等の23%、「1回～2回」と回答した人が9%、「0回」と回答した人が5%であった。また、自分用があるという人では、「10回以上」と回答した人が約4割で最も高い割合となり、「6回～9回」と回答した人が17%、「3回～5回」と回答した人が19%、「1回～2回」と回答した人が14%、「0回」と回答した人が8%であった。家族と兼用のパソコンがある人も自分用がある人も前期のパソコンの使用率が「10回以上」という回答が最も高い割合を占めていることがわかった（図 11）。

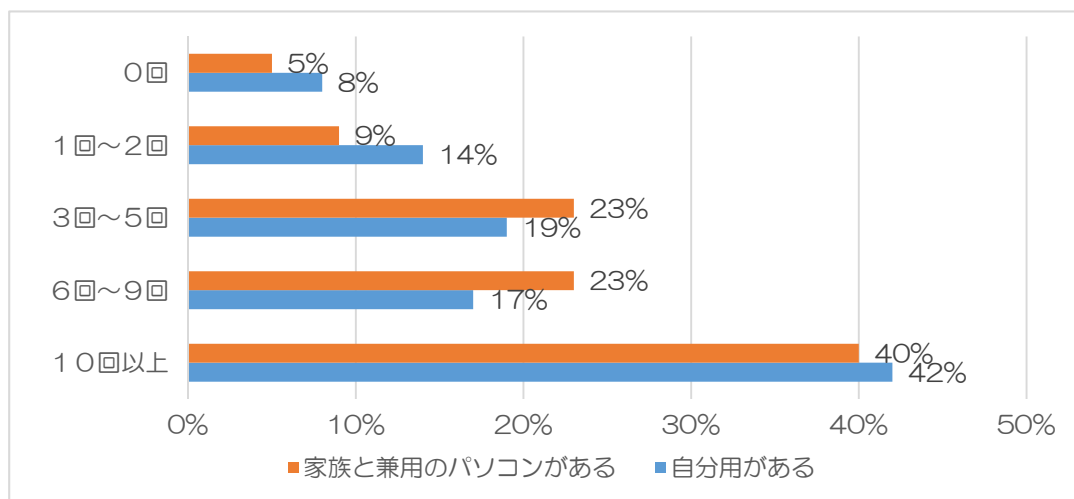


図 11. パソコンの利用率についての比較 (N=58)



(8) 家でレポートの作成を行うか尋ねたところ、回答した学生 62 人全員が「家でレポートを作成する」と答えた。自分用のパソコンを所持している学生が半数以上だった図 10 のデータからも、レポート作成などの学校の課題を家に持ち帰って行う学生が大半を占めていることが伺える (図 12)。

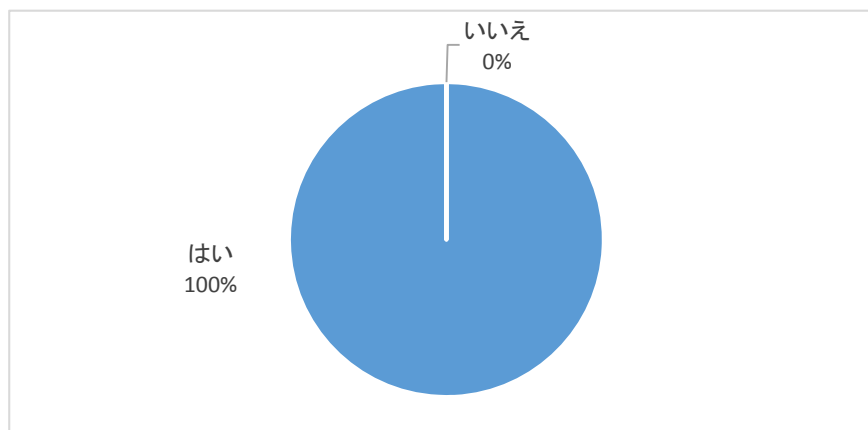


図 12. 家でレポート作成を行うか (N=62)

(9) 学校と家ではどちらの方がパソコンを使用した作業効率が良いと感じるか尋ねたところ、「学校」と答えた人が 43%、「家」と答えた人が 26%であった。図 12 の結果から考えると、家で行う方が作業効率は良いと考える学生が多いかと推測したが、作業効率に焦点を当てると学校の方が良いと答えた学生数の方が多かった。また、「家でも学校でもパソコンを使用した作業効率は変わらない」と答えた学生は 31%であった (図 13)。

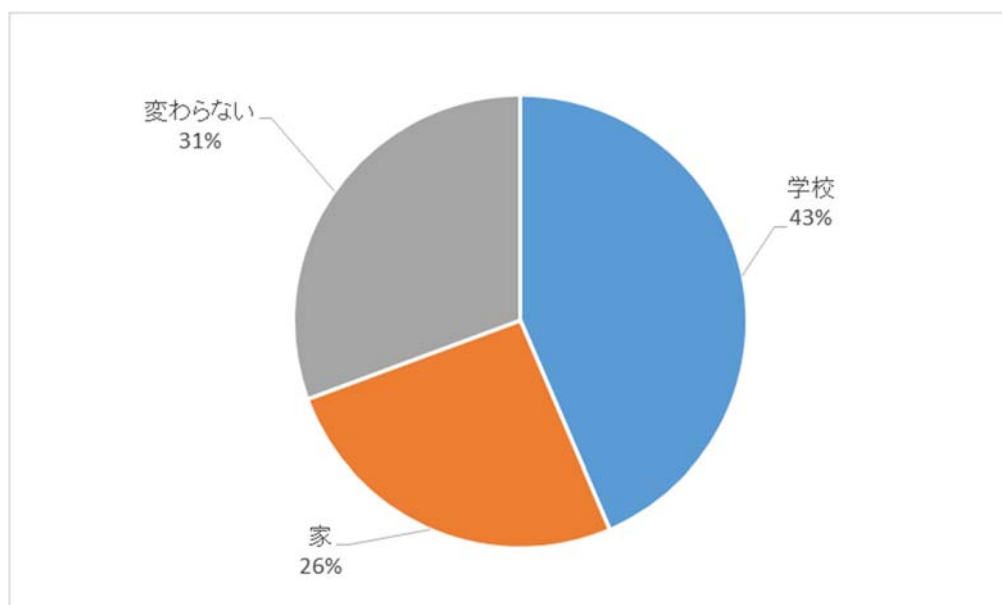


図 13. 学校と家ではどちらの方がパソコンを使用した作業効率が良いと感じるか (N=62)